

## 令和3年度 第3回南部町総合教育会議 議事録

- 1 開催日時 令和4年2月18日（金） 午前10時00分 開会  
午後12時10分 閉会
- 2 開催場所 南部町役場本庁舎 2階 大会議室
- 3 出席者
  - ・町長 佐野 和広
  - ・教育長 入月 一巳
  - ・教育長職務代理者 佐野 保仁
  - ・教育委員 山本 純司
  - ・教育委員 望月 正宏
  - ・教育委員 望月 聡美
- 4 事務局等の出席者
  - 町長部局 秘書政策監 小倉 弘規 総務課長 滝 基成
  - 教育委員会事務局 学校教育課長 渡辺 雄治 生涯学習課長 近藤 利也
  - アルカディア課長 尾崎 龍次
- 5 協議事項
  - (1) ふるさと教育 ～南部学の取組～
  - (2) アルカディア南部総合公園 ～多目的広場の整備～
  - (3) 教育支援センターの事業紹介
  - (4) その他
- 6 議事経過の概要
  - 次のとおり

### 1 開 会 （佐野教育長職務代理者）

お忙しい中、総合教育会議にお集まりいただき大変ご苦勞様です。

先日の南部町成人式の成人者代表あいさつで「将来、一人でも多くの方が南部町に戻ってこようではありませんか」と呼びかけがありました。聞いていた保護者の方も、その言葉にぐっときましたと言っていました。あの言葉こそが、今日の議題にもありますふるさと教育の一つの成果ではないかと思っています。それでは、会が充実しますよう、よろしく願いいたします。

### 2 町長あいさつ

皆様にはコロナ禍の中、本当にご苦勞様です。昨日、県下市町村長と教育長を交えた Zoom による Web 会議がありました。議題は感染症への危機感でした。今、一番感染者数を押し上げているのは、クラスターで特に介護施設と学校関係です。南部町は県下では非常に少ないです。ちなみに1月は0でした。2月に入って4人ほどの発生をいたしました。その数も子どもや高齢者ではなく、実際に働いている方でした。その方が職場で感染したという内容です。このご時世ですから、どこでも発生する危険はありますが、南部町の良いところは、感染者が出て、そこで封じ込めています。それは常に福祉保健課とやり取りを行っていますので、その辺で十分に押さえ込んでいるのではないかと思います。また、周辺地域と比べると、南部町の方々が感染症に対する意識が高い、そんな思いがしています。ただ、油断は許しません。今日は総合教育会議で、私たちは子供を預かる身ですので、何としても学校からは出さないようにしたい。4月以降は、イベントを開催したいと思っておりますが、4月の

たけのこ祭りはクラスターを発生させる可能性がありますので、祭り自体は中止とし、たけのこの販売のみを行う予定で進めています。それ以降は、オミクロン次第ですが、地域の活性化のためにも、できれば行っていきたくと思っています。

先ほど、開会の挨拶で佐野委員が触れていましたが、成人式の時に子どもたちが南部町に戻って来て欲しいという話がありました。非常にありがたい話です。そのためには、こちらの受け入れ態勢も整備する必要があります。県も2つの大きな問題を抱えています。一つは介護の人たちをどうするか、という問題とあと一つは教育です。南部町も同じような問題を抱えています。是非、皆さんのお力をいただきながら、南部町の教育を頑張っていきたいと思っています。本日は、よろしくをお願いします。

### 3 教育長あいさつ

1年の総括と来年度の準備をする、大変お忙しい中をお集まりいただきまして有難うございます。学校の方も大詰めを迎えておりまして、中学校の卒業式まで後14日、小学校の卒業式までは後22日という時期に来ています。1年間を振り返ってみますと、私の場合、この職をいただいて1年目ということで、新しいことが多かったです。特にその中で感じているのは、南部町の教育に掛ける意気込み、予算面で、人的な面で、環境・物的な面で、あらゆる面で教育環境が以前に勤めていた静岡よりは、遥かに南部町は良いです。教育については、とても恵まれている町。そのような思いをひしひしと感じながら努めてまいりました。是非、歴史と文化、スポーツと教育を大事されている南部町ですので、町長の話にもありましたが、身を引き締めて教育行政について頑張っていきたいと思っています。

お手元に令和4年度の教育委員会の方針をご用意いたしました。先日の教育委員会で決まった方針です。そこにありますように、町づくりは人づくりからということの基本テーマに、住民の生きがいつくり、子どもの生きる力づくり、地域の絆づくりを目標に、また、この目標に向けて、特別重点施策を7つ挙げてあります。基本方針を念頭に置きながら、この後、話し合いを進めていただきたいと思います。

今までと同じように活発に意見を述べていただきたいと思います。限られた時間の中ですが、よろしくをお願いします。

### 4 議事

#### (1) ふるさと教育 ～南部学の取組～

[初めに生涯学習課長より、生涯学習課におけるふるさと教育推進のための取り組み状況、今後の展望等について説明がありました。]

(山本委員) 現在、私は歴史資料室に携わさせていただき、落穂拾遺を読み込み、3月には一つの冊子化として町民の皆さんにお披露目できます。落穂拾遺には江戸末期から明治のあたりまで、南部に住んでいた人々の生活とか、民族性が非常に色濃く出てきています。他にも町には色々な素材の要素がありますので、調査・研究等を通じて感心のある人材を確保していく、若しくは育成していけば、結構な項目立てと人材の連携が出来るのではないかと思います。

(望月(正)委員) 歴史音痴の私でも、落穂拾遺には興味が湧きます。当時の日常生活が描かれているので、勉強とか学習とかではなく、単純な興味から見てみたいと思っています。町民や子どもたちが目にしても、それに関連した興味が湧いてきて、南部町に対する興味、

愛情が深まる一つのきっかけになるのではないかと考えています。

(山本委員) ここに住んでいる今の自分と、連続性或いは継続性といえますか、これが見えることは面白いことです。小学生、中学生など、これからを背負っていく世代が歴史的に地域とつながっていることを感じて欲しいと思います。

(町長) 私が本町のことを知らない人に話をする上で、一番初めに話をするのが南部氏発祥の地ですと、これが基本です。成人者が外へ行った時も同じで、南部町を紹介するうえで南部氏発祥の地と言えるように、町民にも南部氏に興味を持っていただきたい。その後に掘り下げた中で、詳しい人は当時の生活のことなどを話が出来れば占めたものです。

南部学を開催する上で一番初め易いのは、目に訴えることです。話だけだと難しいので視覚から入る構成にしてもらおうと興味を持ちやすいと思います。

(望月(聡)委員) 南部学の講座に来られる年代層は。

(事務局) 年配の方が中心となります。先月に行ったときは、ふるさとカルタの原画展に併せて開催しましたので、子どもさんも親と一緒にいましたが、実際のところは高齢者の方の参加が多いです。事務局としては、できるだけ幅広い方々に興味を持っていただき、参加していただければと考えています。

(望月(聡)委員) 子どもたちは小学校高学年、中学生までとふるさと教育を色々と学んでいますので、保護者や町民に発表する場があれば、子どもたちにプレゼン能力も着き、より一層良いかなと思いました。難しいかもしれませんが南部学の講座の一回に子どもたちの発表を入れるなどすることも面白いのではないのでしょうか。あと、他県の取り組みでは、子どもたちが県の歴史について紙芝居にして発表したり演劇をしたり、物品販売と称して、子どもたちが地域の方々と一緒に作ったお米を売ったりと、面白いイベントを行っています。南部町でも町民文化祭等でコラボレーションできればと思いました。

(望月(正)委員) 総合的な学習の時間に発表を組み込ませないか考えた経過がありますが、学校の多忙化とコロナ禍のため、グループ学習に制限があり、今のところ頓挫しています。しかし、子どもの探求心を刺激できるので大事なことですし、発表の手段にICTも活用できます。色々なことが総合的に学習できるシステムだと思いましたが、実現には至っておりません。

(佐野委員) 今、話されたことは案で温めて置いて、ふるさとカルタがそこに発展する。良いことだと思います。

(山本委員) 今のことは、まず初めに学校現場に理解してもらおうことだと思います。教育課程の総合的な学習の時間のプログラムの中に入れ込んでもらう。時間的には10時間から15時間はかかると思います。

(望月(正)委員) 全部で70時間の中の10時間以上を取ることは、他のことをやめるしかないもので理解を得るのは難しいので、町の方針でふるさと教育の推進に重点を置き進めていくことで理解を得なければならないと思います。

(山本委員) 今は評価点が固定化してしまっている。発想を変えて、新たな展開として望月委員が言うように、実際に考えてもらう必要がある。中身を精選していくことと同時に、新たな展開を造っていく。そのために町としても素材を用意して置く。どのようなものがあるか示してあげる資料化を同時に進めていかなければならないと思います。

子どもたちが発表する機会を作ることは、良い視点だと思います。大人の目から考えるのではなく、子どもの目から地域を考えていく。良い発想だと思います。

(望月(正)委員) 子どもたちの身近にある、例えば地域のことから興味や関心を持って、課題を見つけて、解決して発表という流れができます。やればできるのだが、今言われたとおり、発送の転換は難しいところがあります。

(佐野委員) 事務局から今年の 6 月ごろから始める南部氏をテーマにした歴史講座のことを話されましたが面白そうと思ったのは、勉強しながらその場所へ行き、更に知識を深めることも考えているということで、非常にありがたいと思っています。この間のふるさとカルタの時も、参加した方から講師の方が時間があれば実際に見に行ってくださいと言っていたが、簡単に一人で行くことは出来ないし、連れて行ってはくれないのでしょうかと言われました。実際の場所へ連れていくことも参加する方は楽しみにするのではと思います、非常に期待をしています。

## (2) アルカディア南部総合公園 ～多目的広場の整備～

[アルカディア課長から多目的広場を整備する目的や施設の概要等について説明がありました。]

(町 長) この多目的広場は、昨年のメインの事業です。当然、中部横断道が開通することを見越した事業です。人口減の問題に対し、交流人口を増やさなければなりません。そして多くの人たちが来てくれることによって、本町の地理的な便利さを始め、教育等の中身の良さもわかっていただき、最終的には本町に住んでいただく人を増やしたい。そして、火祭り会場の駐車場としても活用できます。更にアルカディア図書館や美術館がありますので、スポーツと文化の聖地にしたいと思い整備しました。子育てのお母さん方から聞いていたのは、南部町には子どもたちを遊ばせるような公園がないということでしたので、遊具も取り揃えました。そして、お年寄りたちも散歩をしながら、健康増進に努めていただく、これら全てを備えた形の広場です。今後は、町の活性化が生まれ、町のメインとなる施設だと思っています。

(望月(正)委員) 富士川側に 110mハードルのレーンが出来ると言われたが、個人的に面白い発想だと思いました。

(山本委員) スポ少野球の交流会や中学校の招待野球試合など、県内、他県など様々な方々がアルカディアを訪れますので、色々な方々にアピールができればと思いました。

(望月(聡)委員) 息子たちに話をしたら大変喜んでいました。今はコロナ禍で友達と遊ぶ機会も減っていますが、公園なら外なので友達とのびのび遊べるし、このような公園が出来て親として本当にありがたいと思います。

(町 長) 本当は天上山を開拓して公園を造ろうと思っていましたが、広い河川敷を使って有効活用をすればと思い、このような形になりました。

(望月(聡)委員) クラフトパークはインスタをやっていて、様々な情報が発信されてきます。この公園も文字モニュメント等、素敵なので出来上がれば情報を発信しようと思います。

(山本委員) 今、望月委員が言われたとおり、町で発信することも大事ですが、来た人が個人的に発信してくれることが大事だと思いました。遊具も今風で良いですね。子どもは遊びながら運動機能を高める。また、お年寄りが行ってもストレッチなども使えるということ、孫を見守りながらお年寄りも遊べるみたいな誘導も必要だと思いました。

### (3) 教育支援センターの事業紹介

[教育支援センターの指導員でもある望月(正)委員より、教育支援センターで行われている事業の説明をしていただきました。]

(町 長) 県下で教育支援センターの取り組みをしたのは南部町が走りです。今では各地で同じようなことをやっています。その後の活動を見ましても、それだけではなく更に枝が広がり、南部町教育が非常に助かっています。

(望月(正)委員) 不登校対策のチャレンジ教室は、本来ならば学校へ行き勉強して、部活動やるのが一番良いのですが、色々な事情が個人的にも環境的にもあり、学校に通えない子どもたちに、ある程度の学力を付けてやる必要があります。そのような子どもたちを救っていかねばならないと思います。

(町 長) 今年の成人者の中にも通っていた子がいましたが、今では短大か大学にも行っています。それを考えると支援センターを作った良かったと思います。南部町の先生方がボランティアでやってくれていますので、ありがたいです。多分、南部町へ派遣される先生方も、本来ならば自分たちで対応しなければなりませんので、ありがたいと思っていると思います。

(望月(正)委員) それもありますが、私がすごいと思うことは、町単の先生を配置してくれることです。私が以前に配置になった他市町では、このようなことはありませんでした。

(町 長) 町としては大変ですが、知事にも 25 人学級以下の町村への公的資金の支援をして欲しいと要望しています。しかし、この資料を見ると支援センターもすごく進化していますね。

(山本委員) 私は退職した後に頼まれて支援センターで社会を教えていましたが、現役の頃の授業を思い出しながら、今までと違った視点で子どもと関わっていらしたので、非常に有意義でした。現在、支援センターに登録されている 19 名の先生方も、教育に係わる人材として深く子どもたちの教育に継続して関わっていただけたら、更に南部町の教育力の厚みになるのではないかと。そのための教育支援センターは重要な拠点になっていると思います。

(佐野委員) 私も携わらせていただきましたが、南部町のような小さな町が一番最初に設置してくれて、今も続いていることはすごいことだと思います。

### (4) その他

特になし

## 5 閉 会 (山本委員)

お疲れ様でした。毎回思うことは、この会議に出ると町政の実態を知ることにもなりますし、また、自分としてどう協力していくのかと考える機会にもなりました。今日のような話の中で、今後、どう発信していくのかということもキーワードになったと思います。自分自身も知り合いとか、周りに発信を心掛けながら、良さをどう伝えるか、住んでいる私たち全員が考えられるようになるといいな、全町民が外へ発信できるような町になるといいなと、感想ですが思いました。本日はご苦労様でした。ありがとうございました。